

肝再生に対する加齢の影響とその機序に関する研究

【はじめに】

肝再生は切除された肝臓が元の容量や機能を回復する現象です。肝臓切除や生体肝移植における術後の肝再生は患者さんの生死を左右する重要な因子となっています。実験動物では50年以上の前から肝再生が加齢とともに低下することが知られています。しかしながらヒトにおいては年齢が及ぼす肝再生への影響は必ずしも明らかとは言えません。また、近年実験動物レベルでは肝細胞上に存在する胆汁酸のレセプターであるFarnesoid X receptor (FXR)を介したforkhead box m1b transcription (Fox m1b)の活性化が肝細胞分裂の重要な機序で、これらの発現が高齢動物で低下しており、肝再生の低下の機序として注目されています。

本研究の目的は過去の症例の肝機能、肝硬変の程度、年齢・性別などの背景因子と過去に採取された肝組織のmRNAをRT-PCRで定量化するとともに肝再生に関与する因子を明らかにすることです。とくに加齢が肝再生に与える影響を中心に検討します。

【対象】

対象は九州大学病院 肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科にて施行された肝臓の2区域以上(肝右葉、左葉切除以上の切除)の切除31例、右葉切除を行われた生体肝移植ドナー24症例。(2004年1月1日～2011年3月31日)。対象となることを希望されない方は下記連絡先までご連絡ください。

【研究内容】

過去の症例の肝機能、肝硬変の程度、年齢・性別などの背景因子と過去に採取された肝組織のmRNAをRT-PCRを用いて、定量化するとともに肝再生に関与する因子を明らかにすることです。とくに加齢が肝再生に与える影響を中心に検討します。mRNAはFXR, Foxm1bを定量化します。FXR, Fox m1bは動物実験では加齢により肝再生が低下する原因として報告されています。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究では患者さんの試料は匿名化して研究に使用されます。本研究の実施過程およびその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日から平成25年3月31日までです。

【医学上の貢献】

この研究により、肝切除後の肝再生に影響する因子が明らかになれば、術後の肝不全を回避できる可能性があり、今後の肝切除、肝移植成績の改善に役立ち、医学上の貢献があるものと考えます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科学

責任者 教授 前原 喜彦

九州大学病院 肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科

九州大学病院 肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科

九州大学 集学的外科治療学講座

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel:092-642-5463 診療准教授 調 憲

診療准教授

講師

講師

調 憲

武富 紹信

吉住 朋晴